

農業



令和8年2月号

会誌 No. 1740

目次

巻頭言

高齢者の挑戦……………五月女昌巳 3

論壇

「私たちの食生活を支える大豆」について……………谷口亜樹子 4

農業・農村担い手問題研究会

「第7回農業・農村担い手問題研究会」の開催について
「農業で笑顔と笑顔を創造しつなぐ」……………殿倉由起子 6

農業・農村担い手問題研究会

「第8回農業・農村担い手問題研究会」の開催について
「未来の農業と環境を創造する」……………平峰 拓郎 21

表彰農家訪問

人とのつながりと学びをもとに生み出した中山間地の循環型水田農業経営
……………小巻 克巳 37
—岡山県真庭市に三船進太郎さんを訪ねて—

農業・農村の現場から

規格外果実等を用いたフルーツソースの開発……………松本 敏一・遠藤 拓人 45
—高大連携の取り組み—

世界の農業は今

ヒコバエ（再生稲）の力……………山岡 和純 51
—宇宙船地球号を耕す新しい稲作のかたち—

私の経営と志

福井県若狭町で就農支援事業と米生産に携わる…………… 下嶋 光晴 59
—社員としての私の役割—

農業関係予算情報

令和8年度農林水産関係予算等について……………大日本農会企画部 61

統計情報

2025（令和7）年産なたね（子実用）の作付面積および収穫量…………… 64
（全国）

農政情報

…………… 65

編集部から…………… 65

大日本農会だより…………… 66

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

**ぞんべら祭り
（石川県 輪島市）**

毎年2月6日、輪島市門前町の鬼屋神社で行われる。鬼屋神社は古くは神明社と呼ばれ、鬼屋の鎮守とともに總持寺の守護神であった。祭りは県の「無形文化財」に指定されており、「なり祝い」（なりものを祝うの意）という、昔の耕作過程をしのばせる特異な芸能が奉納される。

狩衣装の祭主が神前に進み祝言を言上した後、直径40cmの平な鏡餅を棒に差し込んだものを糸車に見立て、「ブイブイ、ネソネソ」と唱えながら、右左に振り回して紡ぎ織りの所作をする。今度はそれを鋤に見立て、村人の頭や膝を畔のかわりにして「ペロッペロッ」となでたり、こづいたりする。次に祭主は、神楽太鼓を陸奥の国から買い求めた牛だと称して、ねじり鉢巻きの鼻取り役と共に方言をまじえながら、おもしろおかしく転がし回す。牛耕の所作である。

次に田植えにかかる。紺着に姉さんかぶりの女性達が現れ、松葉を苗に見立て田植えをする（表紙写真）。祭主はそれに合わせて太鼓を打ちつつ、「田植えや早乙女、笠買うてきしよに…」と田植え歌を歌う。それが終わると、祭主は古い朽ちかけた幾つかの燈台と奉燈のみの薄明りの中で端座し、太鼓を打ちながら「ひんだの山より、山じを寄せて、此の木を直し…」と田ばやしを歌う。座にいるものは、それに合わせてゴゴメの木（紫式部の木）の枝で床板を「パチッパチッ」とたたく。最後にみんなで「いつもより世よし」と三回唱えて、祭りは終わる。

（写真：輪島市，文：鬼屋区長 中田 玄丈）